



# 全国連合退職校長会

# 会報



巻頭言

## 働き方の見直し

副会長（東北地区） 千葉 昭

学校における働き方改革は、以前から課題になっていたが民間会社の過労死問題から急速にクローズアップされるようになった。

文科省の調査で、小中学校教員の多忙化が年々増加し、残業時間が月80時間以上の過労死ラインに達する教諭は、小学校で34%、中学校で58%。文科省では看過できない深刻な状況としている。

特に、部活動担当教諭の勤務実態は、放課後3時間以上、土・日曜日にも練習や試合のための勤務を余儀なくされている。

また、管理職の勤務時間も校内外の仕事量が増加傾向にあり一般教諭よりさらに長時間になっている。

東京都では、副校長の欠員が出るおそれがあることや校長の

再任用が行われているとのことである。

全連退では、毎年のように文科省等へ要望書を提出し、教員の長時間労働の解消を含め学校における業務改善の方策や教育に専念できる勤務環境の整備について要望してきた。

文科省では、小中学校教員の多忙化を緩和するため外部人材の積極的な活用を打ち出した。

長時間労働の一因である部活動については、外部指導員配置のための補助費用の予算化、小学校の英語、体育など特定教科を持つ専科教員の配置、中学校では、いじめや生徒指導に対応する教員増、勤務時間が特に長い副校長・教頭の負担軽減のための事務職員を増やす方策が進められている。

しかし、根本的な対策として

は、義務標準法の改正による基礎定数改善が急務である。

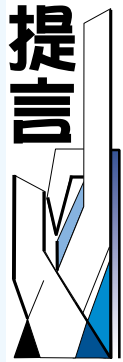
また、同時に全国的に少子化による小規模校化する小中学校の実態に応じた積極的な教員配置も忘れてはいけない。

小規模校化する学校は、各教科の専科教員が配置できなかったり、生徒の希望する部活動が実施できず転校する生徒も出ている。また、近隣の学校と合同で試合に出場することも珍しくなくなってきた。

地方では、少子化による小中学校の統廃合が急速に進んでいる。地域に学校がなくなり過疎化に拍車がかかっている現状である。

新指導要領では「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた地域の人的・物的資源の活用や放課後・土曜日等を活用した社会教育との連携が重視されている。

退職校長会としても地域の実情に応じて「学校運営協議会」や「地域学校協働活動」の地域と学校をつなぐ「連携・協働」のコーディネート役を担ってきたいものである。



## 百見よりも一験を

副会長 (中国地区) 鷺尾 実

「人生いろいろ」と言う歌があるように誰の、どの生き方が良いとか、悪いとかは決められません

が、会の綱領にある親睦・福利・厚生の実を図る等の目的から「出会いの場」づくりは極めて大切であると思います。最近では価値観の多様化で、山へと言えば、海と言う人があり、取りまとめは困難です。

最近の会員の生活には四つのパターンがあるように思います。一、教育は一生の仕事と思う人

新聞、雑誌、TV等でも常に教育に関心を持ち、舅・姑的にならな範囲での評議員、学力の補充や生徒指導等を手伝う方。二、社会教育分野で活躍する人 自治会、公民館、民生委員や寺社の総代等を引き受ける方。

三、趣味や特技に集中する人

絵画、書道、写真、自然観察旅行等現職時代にやりたかったことに時間的余裕を生かす方

四、「教育」は卒業だという人

教育は勿論、人と会ったり世話などもしたくない。読書や釣り、畑作りで閉じこもりがちになる方等があります。

そうした中で、本県では全体総会・懇親会、広報紙発行、教委と学校とを結ぶ懇談等を実施。各支部では、議会や裁判傍聴、作品展、秋楽旅行、文化財探訪、雛祭り灯籠や豆腐とソバ・減塩食作り、ノルディックウォーキングに取組み「百聞は一見に如かずを百見は一験に如かず」と

体験型中心に企画を出し合い頑張っています。皆さんの所はどんなアイデアや取組み状況ですか？

最後に一つ、文科行政に対し若い教員の海外研修拡大を是非課題として欲しいと思います。

世界中を「見て来たようなウソ」の地歴授業をした私の反省から強くお願いしたく思います。

## 関係機関との連携を大切に

副会長 (四国地区) 溝渕 正臣

平成28年度から県の会長となり、2年目の本年度は全連退の副会長に就任することとなった。

その役職を受けてから会議等への参加機会が増え、新年早々のある日に、香川県教育県民会議主催の新春懇談会に出席した。

この団体は、香川の教育の将来を設立されて以来40年を経過した今日、家庭・地域・学校が一体となり「心豊かな子どもたちを育てるための教育」の推進に取り組んでいる。

会長及び来賓の県教委教育長他関係課長の挨拶の後、現職6団体(小・中学校長会、管理職員協議会、教職員連盟、PTA連絡協議会、子ども会育成連絡協議会)代表から現況報告等があった。OBとしては私どもの会等数団体の参加であった。

開会セレモニーの後は懇談会となり、この時間が有意義なひと時となった。県教委を交えて、OB及び現職の団体役員である参加者が、それぞれの立場で課題や今後の方針等について意見を交換を行うことで多くの得るものがあつたといえる。

それらをそれぞれが持ち帰り、そのレベルでの関係団体と連携をして、より良い実践に生かされるであろうと思う。

改めて、家庭・地域・学校との連携の大切さを痛感することができた。

今後、「社会に開かれた教育」が重要視されることから、私ども退職校長会も関係機関との連携を一層深め、教育現場を支援しなければならぬ。

年頭に当たり、全連退副会長・四国地区連絡協議会及び香川県の会長として、「関係機関との連携」を大切にしながら、その重責を果たすことができるよう努力したい。



近畿地区

期日 10月27日(金)
会場 琵琶湖ホテル(大津市)
出席者 65名

一 研究協議

「新入会員の入会促進と若手や女性を積極的に登用する方途について」を協議題として大阪と滋賀が発表

○教育みおつくし会(大阪)

12月から2月にかけて役員が校園長会に出向き入会案内している。女性の登用については、規約により校種別に役員登用人数が割振りされているので女性が必ず入っている。人事入れ代わりの時に、できるだけ退職年度別に交代し、若手の登用を図っている。

○滋賀県退職校長さざなみ会

近年は、退職校長のほとんどが再就職されるので、再就職

先の先輩会員から入会の声掛けをしてもらい、支部役員に登用できたケースもある。女性の登用については、県内にある女性管理職会(現職と退職女性管理職の会)から本部役員として2名入ってもらっている。

二 報告

全連退常任理事・教育課題委員長の田中昭光様より本部報告に続き、文科省の教育行政改革に係る今後の方向性についてご講話いただいた。特に、学校における働き方改革や地域学校協働活動については、現職校長会と連携する上において大変参考となった。

三 研修

さざなみ会会員3名による箏と尺八の演奏で、滋賀にちなんだ曲「千鳥の曲」と「琵琶湖周航の歌」を楽しんだ。

懇親会では和やかに交流を深め合い、次期開催地である奈良県での再会を約束し散会した。

東海北陸地区

期日 29年11月9日(木)
会場 フレックスホテル松阪
出席者 28名

第一日【協議会内容】
協議1、組織の強化・活性化の取り組み

- ①学校活性化を支える
②地域活性化を支える
③協議会を組織し支援する
④組織活性化委員会を結成する
⑤生々しい会員の発表
⑥会員の意識高揚のため、県総会の支部開催を行う
⑦役員の意識高揚を図る
⑧役員の責任分担を明確にする
⑨会議の有り方・持ち方を検討する

⑩役員と県教委との懇談

※ 懇談内容が実現した
①役員と現職校長会役員との懇談(入会の勧誘)

協議2、東海北陸地区協議会の
会報発行について

協議会報告は各県・全連退にするので、中止する。

【情報交換】

一、地域支援・学校の現状と課題

- ①学校協働本部立ち上げ
②支援協力員結成・学校行事支援月間の決定
③学校へ支部支援委員の氏名を連絡
④初任者研修への協力

二、事務局の部屋の確保

- ①公益財団の教育記念館
②出資した教育文化会館
三、全連退への要望・提言
①全連退入子総務部長から講評・指導・連絡を頂く。
②議長(西輝昭協議会会長)が成果を確認して終了した。

【夜間・懇親会】

第二日【教育視察】

本居宣長記念館・松阪城・宣長旧邸・御城番屋敷・長谷川邸・松阪木綿織センター・豪商パーク視察

昼食後解散



「共にある」といつかわり

北海道退職校長会

会長 永峰 貴

北海道には、本会他に「北海道教育振興会」「日本教育会北海道支部」の三つの教育関係団体があつて、それぞれ独自に活動を行っている。その三団体が共同して開催する事業の一つに「北海道教育の日制定記念イベント」があり、例年11月1日の教育の日に頃に開催している。ここ数年のテーマに「共に」という文言が共通の思いとして盛り込まれるようになってきた。そのきっかけが、平成26年の第7回大会であつた。共通テーマとして「共生社会の形成に向けて」を掲げてシンポジウムもたれたのである。

「共生社会」という文言は、特別支援教育でよく使われる文言であるが、当日のパネリストに36人の従業員中26名が知的障

がい者であるという工場の工場長さんがおられた。工場長のお話には、「こちらの対応いかによつては、健常者以上の仕事をこなすことができる。」という報告があつた。以来、この「共生」＝「共に生きる」ということがキーワードとして定着するようになった。翌平成27年の第8回大会では、「中札内村共育の日の取組について」の発表があり、「教える育てる」ではなく「共に育つ」取組が報告されたのである。

こうした思いは、以後も受け継がれ、第9回制定記念イベントのテーマに盛り込まれることとなった。つまり、主題は「あなたはだれかのために、何ができますか？子どもたちに『共に歩もうとする力』を」となり今日に続いているのである。

「共にある」といつかわりこそ教育の原点であると認識しているからである。これからも現職の応援団として、学校現場と共にあるかわりを築き続けていきたいと考えている。

支部活動の活性化を目指して

茨城県退職校長会

会長 綿引 徳治

本会は、本県教育の振興に寄与すると共に会員相互の親睦と福祉の増進をはかり、支部の活性化を目指して活動している。

◎総会・祝賀懇親会

新役員の改選、予算決算承認、重点目標・事業計画の承認

◎現職校長との教育懇談会

小・中・高校長代表8名の参加を得て、「学校の多忙感の実際と課題」など、現場での悩みなど忌憚のない話し合いが2時間にわたって活発に行われた。

◎支部長（理事）・事務担当者合同会議

支部の活性化を目指して―常陸大宮支部と鹿島地区支部の発表があり、その後情報交換をする。「支部活動の現状と課題」から、支部の活性化に取り組んでいる様子が出た。

◎県教育委員会へ要望書説明会

県教育長・総務課長他各課長の参加のもと、「一人一人が輝く活力ある茨城教育の推進」を中心に、教育予算の増額や教育諸条件の整備・充実などを要望する。

◎みんな教育を考える「いばらき教育の日」推進大会参加

本会や「大好きいばらき県民会議」「県PTA連絡協議会」など38団体で実行委員会を設立し、盛大に開催された。11月は「いばらき教育の日」月間で、教育に関する行事が多数行われている。

◎第26回生涯学習実践発表会

会員一人一人が生きがいを求め趣味や研究を实践された発表で「庭づくり・歴史を調べ楽しむ」結城市支部会員、「未来に残そうオオヒシクイ稲敷の空に」牛久・稲敷支部会員二人の実践発表のあと、落語家「立川志ら玉」師匠による落語と講話で、有意義な発表会となった。

本会の仕事始めの風情

東京都退職校長会

会長 多田 丈夫

本会の仕事始めの日は、毎年役員全員で近くの湯島天神を参拝し、会員の安寧と幸せを祈ることになっている。本年も1月9日に参拝した。また、月末には、本部と42支部の役員約130余名が一堂に会し、新年懇親会を開催した。はじめに綱領を全員で唱和、続いて、会歌の合唱が会場に響く。歌あり、余興ありの宴が続く。最後は江戸情緒の木遣りで結束を固めた。この新年懇親会での会員の旺盛なエネルギーが本会の一年を占う。

昨年、将来を見据えた創造的な組織づくりをと設置した業務改善委員会からの「答申」を受けて、今年度中に刷新された「会則」が誕生する。

1月31日には、恒例の都教委幹部との懇談会を終えた。今年度は、2020年の東京五輪、学校の働き方改革、管理職の人材

確保等を話題にした。今、五輪

という夢に向かって力強く走り続ける若者たちが目立つ。この日、都側から人事部をはじめとする各部の部課長、主任指導主事から誠実な回答を得て、信頼感に満ちた懇談となった。

次に、毎年、組織の活性化のためにと本会主催の「教育フォーラム」を5月下旬に開催する。第3回目の今年度は「次期学習指導要領の改訂と学校の取り組みについて」をテーマに5校種の校長会代表をお招きし、公開討論会を開く。また、10月には関係プロ退職校長会の東京大会開催が予定されている。チームワークよろしく「東京らしいおもてなし」をしたい。

いずれの取り組みも本会の存在感を高め、本部と42支部が一体となって実行することが重要となる。そのような時の危機管理の要諦は「悲観的に考え、樂觀的に行動すること」と肝に銘じつつ、高齢化集団だが組織力を高め、成功に導きたいと考える昨今である。

会員の生きがい見つけの手助けができる会を目指して

岐阜県退職校長会

会長 後藤 忠喜

本会は①会員相互の親睦と連携、②地域の教育・文化の向上、③会員の福祉の増進を3本の柱として活動を進めている。

平成28年度創立50周年を迎え、県の総会を「記念総会」として記念講演を行った。加えて機関誌182号を記念特集号として発行し、50年の歴史の一端を記録に残した。以下、特に重点をかけた取り組みでいる活動、3点について述べる。

1 県内24の支部活動の推進

私たちの活動の根幹は何となくも支部活動の推進である。地域に密着した、支部ならではの特色を生かした活動を工夫し、楽しみながら進めている。支部総会での会員発表、研究会・研修会・親睦会、現職校長との交流会、作品展、高齢会員宅への激励訪問等々多彩な取り組みがなされている。

2 機関誌「彩雲」の発行

年3回発行の「彩雲」は会員の財産であり、生きがいの表出でもある。各支部に編集協力員を置き、全支部からの情報を入力し掲載している。

支部だよりをはじめ、「今を生きる先達」の取材、情熱が迸る「燃焼」、小中学校の校樹・校訓の紹介、本部役員による「巻頭言」、誌上サロンでの趣味特技の紹介、随想2編(うち1編は語り継ぐ戦争)等々冒頭に述べた3本柱の全てを網羅している。

3 総会時実施の会員発表

県の総会時に2支部の会員発表を行っている。会員が個人として、複数の会員と共に、あるいは地域の方と共に生きがいとして取り組んでいる活動の発表である。

今回の発表の一つは、可見市を流れる木曾川の左岸堤防の竹藪を、なんとか整備したいと立ち上がり、大変な労力と時間をかけての遊歩道の完成という事業であった。

春秋会の活動

大阪府立学校退職校長会

会長 田中 保和

大阪府立学校長の経験者を会員とし、事務所を大阪府立高等学校長協会に置いて活動

○目的

大阪府立学校教育の振興に寄与するとともに、会員の親睦と相互扶助を図ることを目的

○役員及び事務局

会長、副会長、幹事、会計監査、名誉会長及び事務局

○事業

- ① 総会の開催（春秋の2回）
- ② 役員会・幹事会の開催
- ③ 研究例会の開催（秋開催）

〈近年の研究・研修概要〉

- 平成26年度  
本会会員の「マジック&トーク」頭の体操で若返り」
- 平成27年度  
近畿大学広報部次長の「近大マグロを生み出した大学力・志願者数日本一」を果たした大学の取り組み」を講演

●平成28年度

「大阪の教育を考える懇談会」現職及び元大阪府教育長、府立高等学校長協会会長及び本会会長がパネリストとなる懇談会

●平成29年度

羽曳野市の整形外科医 島田病院理事長による「自分らしい人生にするために『変革の時代』に対応する」を講演  
④ 会員の親睦、相互扶助  
懇親会を年2回の総会後実施  
⑤ 会報発行（年2回）  
⑥ 会員名簿発行（年1回）  
⑦ 会員の慶弔等  
⑧ その他必要な事業

○活動

役員及び事務局を中心に各種事業を執行  
事務局各係  
・ 総会係・名簿係・会報係  
・ 会計係・庶務係・HP係

新規会員への入会案内

徳島県退職校長会

会長 松本 勝次

徳島県退職校長会は幼・小・中・高校（園）長、並びに副校（園）長をもって組織され、昭和40年の結成以来順調に発展し、現在では会員数1600名余となっており、全県的な組織として有意義な活動を行っております。

具体的活動・行事等

1 会議・会合等

- (1) 総会 (2) 役員会（年4回）
- (3) 会計監査 (4) 事務局長会（随時）
- (5) 各事業部会（各2回）
- (ア) 福利研修部会 (イ) 広報部会 (ウ) 校長誌編集部会 (エ) 教育支援部会 (6) 教育現場代表者との連絡協議会 (7) 全国連合退職校長会理事会（6月と10月）
- (8) 全連退四国地区連絡協議会（9月）
- (9) 高松市で開催。

2 編集刊行物

- (1) 県の会報（7月と1月の2回）発行 (2) 会員名簿（7月発行）
- (3) 校長誌（第10集）4年後に発行予定 (4) 全連退会報（年4回配布）
- (5) 研究紀要、情報（随時）
- (6) 四国地区連絡協議会会報（隔年）

3 慶祝・親睦研修行事

- (1) 総会で長寿者へ賀詞・寿詞贈呈 (2) 親睦研修旅行 世界遺産軍艦島と佐賀・長崎を巡る旅（H29年10月実施）
- (3) 現地研修 板東俘虜収容所跡や鳴門市板東第九の里の探訪、（H29年11月実施）
- (4) 叙勲・大臣表彰祝賀会（H30年1月21日実施）

4 弔事について

- (1) 正会員・賛助会員（幼・小・中）が逝去されたときは、花輪を贈り弔意を表す (2) 近隣会員が葬儀に参列します。

5 要望・陳情活動

全国連合退職校長会と連携協議し、叙勲・年金等の改善活動に努めます。

## 本会の活動について

高知県退職高等学校校長会

会長 谷脇 和隆

昭和36年3月末退職の県立高校長をもって「三六会」と称する親睦団体を組織し相共に手を携えて余生を励まし合い、その友愛の絆を固めて来たが、その後年々退職する高校長の賛同参加をみるに至り、昭和49年度に名称を「高知県退職高等学校長会」（通称「三楽会」と変更し規約を定めたのが、本会発足の経緯である。

「三楽会」の名称は、『孟子盡心章句上』の中にある「君子有三樂」に由来している。

本会は、規約でその目的と会員を「三楽会発会の目標達成と会員相互の親睦を図ることを目的とする」、「本県の公私立退職高等学校長をもって組織する」と定めている。

また、本会の行事として、「会報・名簿等の発行」、「研修会の開催」、「その他本会の目的

達成に必要な行事」を行うことも規約で定めている。

この規約に基づく本年度の主な活動は次のとおりであった。

5月と11月の最終土曜日に、春及び秋の総会を開催した。春の総会では、岡山大学大学院三宅正浩先生から、「近世を見る眼」と題して、秋の総会では、高知県教育長田村壮児先生から「地方から挑戦する国際バカロレア教育」と題して講演をいただいた。

この他、総会では、物故会員への黙祷、新入会員の紹介、長寿・叙勲者への記念品贈呈を行っている。また、総会資料には、「欠席された先生方よりの近況報告」を載せ、会員から喜ばれている。

本会の会報は、『豊かな日々を求めて』と題して、春、秋の総会での講演内容を中心に編集している。

更に会員の弔事に際しては、その都度生花を送り、本会としての手意を表している。

## 魅力ある組織及び

### 活動を目指して

佐賀県退職校長会

会長 井上 和洋

本会は、本年度で創立53年目を迎えています。会員は、県内の小・中学校、県立学校の校長退職者をもって組織し、加えて現職校長も賛助会員として加入しています。

### ○教育支援活動

定期的に教育関係機関・団体（現職校長会、県教育委員会、県PTA・高校PTA等）との教育懇談会を開催し、喫緊の教育課題について協議し、退職校長会としての支援に取り組んでいます。特に、現職校長会との教育懇談会では、毎年、小学校・中学校・県立学校の学校現場からの事例発表があり、事例ごとの研究協議・意見交換を行い、学校支援の在り方等について共通理解を深めています。

各支部でも、学校評議員、補充学習指導員、青少年健全育成委員、主任児童委員として学校

を支援し、授業サポート活動、読み聞かせ活動、こども囲碁指導等のボランティア活動にも積極的に参加し、活躍しています。

### ○会員の福利厚生活動

毎年、グラウンド・ゴルフ大会・視察研修会・囲碁大会を開催し、会員相互の親睦を深め、会員の交流を図っています。特に、視察研修会は、各支部が輪番制で担当しています。

### ○広報情報活動

会報は、年2回発行し、発行数も110号（昭和49年創刊）を越え、退職校長会の活動を広く紹介しています。内容は、退職校長会行事・活動報告、支部だより、会員作品等、さらに、特別寄稿として、県・市町教育委員会等の施策や活動についても掲載し、地域活動のPRにも役立っています。

今後も、退職校長会の専門性を生かし、「学校教育の応援団」として、佐賀県がめざしている「佐賀を誇りに思う教育」の推進に寄与し、さらに教育の振興に努めてまいります。

平成30年度 文部科学省予算案

—— 初等中等教育局関係の概要 ——

総務部 木山 高美

政府は平成30年度の教育関係予算案を決定しました。

以下、主として初等中等教育局関係予算のうち教職員定数改善等を中心に、その概況を報告します。

〈文部科学省初等中等教育局財務課資料〉

《義務教育費国庫負担金》

平成30年度予算額(案) 1兆52228億円(対前年度▼20億円)

- ・教職員定数の改善 +34億円 (1595人)
- ・教職員定数の自然減等 ▼96億円 (4456人)
- ・教職員の若返り等による給与減 ▼94億円
- ・人事院勧告の反映による給与改定 +135億円

学校における働き方改革や複雑化・困難化する教育課題へ対応するため、教職員定数を1595人改善。

学校の指導・運営体制の効率的な強化・充実を図り、新学習指導要領の円滑な実施の実現

(1)学校における働き方改革 計 +1090人(加配定数)

◆教師の持ちコマ数軽減による教育の質の向上

◆小学校専科指導の充実 +1000人

新学習指導要領における小学校外国語教育の授業時数増(小3〜6・週1コマ相当)に対応し、質の高い英語教育を

行うことのできる専科指導教員の確保

◆中学校生徒指導体制の強化

生徒指導専任の教員を充実し、授業準備等の充実を図る +50人

学校総務・財務業務の軽減による学校の運営体制の強化

◆共同学校事務体制強化(事務職員)

+40人

(2)複雑化・困難化する教育課題への対応

計 +505人(再掲除く)

教育課程への対応のための基礎定数化関連

+385人(基礎定数)

(H29年3月 義務標準法改正による基礎定数化に伴う定数の増減)

◆障害に応じた特別の指導(通級による指導)の充実 +505人

◆外国人児童生徒等教育の充実 +58人

◆初任者研修体制の充実 +63人

※基礎定数化に伴う自然減等 ▼241人

120人(50人+20人+50人)再掲の50人は除く(加配定数)

◆いじめ・不登校等の未然防止・早期対応等の強化 +50人(再掲)

◆貧困等に起因する学力課題の解消 +50人

◆「チーム学校」の実現に向けた基礎体制の基盤整備(養護・

栄養教諭等) +20人

◆統合校・小規模校への支援 +50人



復興特別会計・児童生徒に対する学習支援等に取り組むための加配定数措置  
870人  
(以上が義務教育費国庫負担関係)

《多彩な人材の参画による学校教育力の向上》

〔補習等のための指導員等派遣事業〕  
公立学校の教育活動で左記のような取り組みを行うサポートスタッフ（非常勤）の配置に要する費用の1/3以内を補助

学力向上を目的とした教育活動支援 31億円（7700人）

- ★ 児童生徒の学習サポート
- ★ 学校生活適応への支援
- ★ 進路指導・キャリア教育・就職支援
- ★ その他（教員の指導力向上等）

スクール・サポート・スタッフの配置 12億円（3000人）

※教員の負担軽減（学習プリントの印刷など）を図るための事業として実施。各自治体において明確な成果目標を設定し、成果の検証を含めて実施するものに対し補助を行う。

中学校における部活動指導員の配置 5億円（4500人）

※適切な練習時間や休業日の設定など部活動の適正化を進めている教育委員会を対象に部活動指導員の配置を支援する。

《学校現場における業務の適正化》  
学校における働き方改革、統合型校務支援システム等 6億円（1億円増）

《教員の資質能力の向上》  
研修の実施及び調査研究の推進等 15億円（1億円減）

《教育課程の充実》  
新学習指導要領移行措置に対応する補助教材作成・配布等 38億円（0）

《道徳教育の充実》  
「特別な教科 道徳」の教科書の無償給与等 35億円（16億円増）

《特別支援教育》  
切れ目のない支援体制整備充実事業等 24億円（2億円増）

《全国学力調査の実施》  
国語、算数・数学、理科の悉皆調査（小6、中3） 52億円（0・4億円減）

《いじめ・不登校対応等の推進》  
スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置拡充 64億円（3億円増）

いじめ対策・不登校支援等推進事業

《幼児教育の振興》  
幼児教育無償化に向けた取り組みの段階的推進等 371億円（12億円増）

《へき地児童生徒援助費等補助金》 24億円（1億円減）  
(以下 省略)

【訂正とお詫び】  
○会報206号6ページの地区名は四国地区ではなく、中国地区です。訂正してお詫びいたします。

福利厚生情報

超高齢社会における

社会保障

生涯福祉部長 岡野 仁司

厚生労働省は昨年の9月15日、100歳以上の高齢者が前年比2132人増の6万7824人となり、47年連続で過去最多を更新したと発表した。

今年度中に100歳を迎える人は9月1日時点で、前年比359人増の3万2097人(男性4636人、女性2万7461人)だった。

100歳以上の高齢者の内訳は、女性が2102人増の5万9627人で全体の87.9%を占めた。男性は30人増の8197人だった。人口10万人あたりの人数を都道府県別で見ると、最多は島根県の97・54人で5年連続のトップで、鳥取県が92・11人、高知県の91・26人と

続き、上位7県は西日本が占めた。一方、最少は埼玉県が32・09人で、愛知県35・01人、千葉県37・83人など人口の多い都市部では人数が少ない傾向を見せている。

また、国内最高齢者は女性が117歳の田島ナビさん(鹿児島県喜界町)、男性は112歳の野中正造さん(北海道足寄町)である。

国は1963年から、全国の100歳以上の高齢者を表彰する取り組みをしているが、当時は153人にとどまっていたが、医療技術の進歩や高齢者の健康意識の高まりを背景に増え続け、1998年には1万人、2012年には5万人を突破している。

総務省は9月18日の「敬老の日」に合わせ、65歳以上の日本人の高齢者人口(9月15日現在)の推計を発表した。

総人口が前年に比べて21万人減る一方、高齢者は57万人増の

3514万人、総人口に占める割合は0.5ポイント増の27%となり、いずれも過去最高を更新した。

高齢者の割合は世界で最も高く、90歳以上の人口も初めて200万人を突破した。

性別で見ると、65歳以上の男性は1525万人で、男性人口に占める割合は24.7%になる。女性には1988万人で30.6%と、2年連続で30%を超えた。

年代別では、70歳以上が91万人増の2519万人(総人口に占める割合は19.9%)となる。国民の5人に1人が70歳以上となる計算になる。80歳以上は37万人増の1074万人(同8.5%)、90歳以上は14万人増の206万人(同1.6%)だった。

一方、高齢化の進展に伴い社会保障費の伸びをどう抑えるかが課題となっており、来年度予算では約6300億円の自然増が見込まれている。社会保障費

の大部分を所管している厚生労働省は、来年度予算で3兆4298億円を概算要求している。

厚生労働省は去る9月15日、病气やけがの治療で医療機関に支払われた2016年度の医療費について、概算総額を発表した。

その額は、41.3兆円(前年度比0.2兆円減)で、14年ぶりに減少に転じた。

国民一人当たりの医療費は32.5万円、75歳以上の後期高齢者は93万円、75歳未満では21.8万円だった。

減少の理由は、2016年度の診療報酬改定で医薬品の価格である「薬価部分」が引き下げられ、高額だったC型肝炎治療費等薬剤にかかる費用が全体的に減ったためだ。

厚生労働省は「高齢化による医療費は増加傾向にあり、減少は一時的なものだ」としている。

全連退 第七回  
新刊図書 の 刊行

この度、全連退では、全国各都道府県退職校長会の全面的なご協力を得て、第7回目の教育図書「心を育む学校の力」を刊行いたしました。

本書は読み進むうちに、思わず核心に引き込まれてしまうような、全国津々浦々の珠玉の実践の収録です。多くの方々が、手にとってページを捲って下さることを願っています。特に会員の皆様から現職の先生方にお勧めいただいたり、現職の先生方への激励本として贈呈していただければ幸甚に存じます。

書名

「心を育む学校の力」

―学校と家庭・地域の

協働を生かして―

特色ある内容

急激な社会の変化に伴い、家庭や地域の教育力の低下、様々な生活体験の減少や希薄な人間関係などから、子供たちをめぐ

りつつ、いじめ・不登校や規範意識の低下、思いやりの心の欠如、さらには世間を震撼させるような痛ましい事件も頻発しています。このような状況のなか、学校への期待や課題も指摘され、子供たちの徳性の二層の涵養が求め

―各章の概要―

- 第1章 豊かな心を育むために
- ① いじめ・不登校等への対応
- ② 全教育活動を通して
- ③ 学校と家庭・地域の繋がりの中で
- 第2章 言葉の力や表現活動で心を育むために



第4章 生涯にわたり学び続ける心を育むために

- ① 自己肯定感が得られる学び合い
- ② 学校・家庭・地域の教育力を高める学び合い

執筆者の特色

本書の執筆者は、各都道府県退職校長会の推薦によるもので、その分野のエキスパートとして活躍されている方々です。執筆者は全国各都道府県に及んでおり、その実践も地域性の滲む多様性に富んだものです。

出版は平成30年3月末  
全国の書店で

編著者 全国連合退職校長会  
A5判・160頁・横書き  
出版社 (株)東洋館出版社  
(東京都文京区本駒込)  
書店での販売価格 2000円+消費税

られています。今、各学校においては家庭・地域の連携の中で、子供たちの健やかな心を育むために、全国各地で地域に根差した特色ある教育活動が展開されています。本書はそれらの活動を収録編集し、改めて全国に紹介しようというものです。

- ① 心をつなぐコミュニケーション
  - ② 心に響く表現と感動体験
  - ③ 伝統文化と生きる力
- 第3章 協働・連携の心を育むために

- ① 家庭での子供の生活習慣や交友関係等への支援
- ② コミュニティースクール、チーム学校

※5冊以上まとめて、ハガキで全国連合退職校長会事務局へ申し込んで下さると送料・税込み

1冊 1850円  
で送付します。  
(出版事業委員会)

教育振興に関し  
国会議員への陳情を実施



平成29年は秋に衆議院議員選挙があり、日程が遅れ12月1日に「教育振興に関する要望書」を持って議員会館を訪問し、文部科学大臣・副大臣・政務官、与党の文部科学部会、衆議院文部科学委員会及び文部科学大臣経験の議員の計47名の文教関係

議員の方々に陳情を行いました。教育を「未来への投資」として重視し、社会総がかりで子供

の教育を支えていくという認識のもとに、計画的な教職員定数改善により、少人数指導など、子供一人一人に目の行き届く指導体制の充実を中心に要望しました。特に小学校英語の教科化や実験・実技等の多い教科の全ての小学校での専科指導、中学校における生徒指導体制の強化、貧困等による学力課題やいじめ・不登校への対応などへの教員増の確保、教員の事務作業等をサポートするスタッフや部活動指導員の配置等「チーム学校」の実現に向けて専門スタッフ配置の推進、教員の長時間勤務の解消、人材確保法の堅持、幼児教育・保育の無償化等について陳情活動を行いました。

(詳細は全連退情報156号)

「教育の日」の祝日化を  
国会議員へ陳情

今年度は理事会において、各都道府県の退職校長会を通して、秋口に各政党の幹事長クラスを中心に、陳情活動を実施すべくお願いしておりましたが、折しも、衆議院の解散・総選挙となったため、平成29年12月14日に本部役員で国会議員会館を訪問して「教育の日」の制定並びにその国民の祝日化を陳情しました。

この国会議員への陳情活動は「教育の日」が全国36都道府県、179市町村以上で制定されていることに鑑み、これを国民の祝日として制定するよう、全連退の組織を上げて取り組んでいるところであります。

特に今回は、教育再生実行会議第十次提言で、「教師の日」の創設を掲げたことを好機として、より国民の共感を呼ぶと考えられる、「教育の日」を世界に先駆けての制定するよう強調してまいりました。

「陳情先」

安倍総理はじめ麻生、野田、上川、河野、林、加藤、齋藤、世耕、石井、中川、小野寺、菅、吉野、小此木、江崎、松山、茂木、梶山、鈴木各大臣  
二階幹事長、荻生田代行、林代理、金田代理、松村代理、大塚代表、増子幹事長、羽田代行、福田代理、川井代理、枝野代表、福山幹事長、長妻代行、山口代表、井上幹事長、齊藤代行、志位委員長、小池書記局長、玉木代表、大島幹事長、小沢代表、山本副代表、青木幹事長、片山共同代表、馬場幹事長、中野代表等(合計46名)



地方の会報紙より

宮城県退職校長会

「会報」第39号

「腹いっぱいになあれ」

—子ども食堂の

立ち上げ・運営—

塩釜支部 伊藤 義昭

丑年生まれの男6人で、長年地域活動に取り組んできた。成人を対象に、医療、子育て、教育問題等の講演会を、また子どもを対象に、工作教室等を企画し運営してきた。

今年度は「子ども食堂を立ち上げよう」で全員一致。貧困、単身家庭等子育て環境が整わない現状下、問題も多いことは周知のとおりである。

提案者所有の建物を会場とし、企画・運営等を我々が担い、調理等はボランティアの方々。スタッフ陣は揃った。8月から月1回でいよいよスタート。期待に心が弾んだ。結果は何と来客僅か。その後もあまり客足は伸

びない状況。とにかく地域の方々によく知ってもらおうと、町内会・子ども会育成会など地域組織への説明、協力依頼に取り組んだ。

そして11月、第4回子ども食堂開店。広報活動や地域の方々の取組が功を奏し、近隣の親子や行政関係の方々などで会場は賑わった。

会場の一角には「リースづくり」コーナーをボランティアの方々が設定、材料や見本等も準備してくれた。子どもたちは夢中で作成、見事なリースが完成、よいお土産になった。

12月、第5回子ども食堂開店。まずまずの賑わい。3世代で参加された家族もあった。工作コーナーは松ボックリを活用してかわいいクリスマス飾りづくり。ニコニコ笑顔で大事に抱え持ち帰った。

「子ども食堂」は、今後より一層地域の方々の豊かな交流の場となるように、スタッフ全員心一つにし、急がずじっくり運営していきたい。

愛知県退職校長会

「会報」第36号

頼られるうちが

元名古屋・名城小 鈴木 博志

「二階の窓を開けると、焼肉屋の煙が入ってきてしまふ。換気扇の向きを変えるよう、お願ひしてきて。」

「ひさしの瓦が落ちそう。通行人に当たると大変だから、直すように言ってきて。」

退職後、多くの方と同じように、町内会の仕事が続ってきた。

「土日でも部活動などがあつて、とても無理」と、消防団などの誘いを断ってきた身にとつては年貢の納め時。昨年度から会長を引き受けることになり、その最初の仕事が町内の苦情処理。あっちへ行きこっちへ行きと、まるで教頭時代へ戻ったよう。

ほかにも0の日や登校時の交通当番、青パト乗車、救命緊急講習会に防犯パトロールと、町内会長の仕事を挙げ出したらきりがない。

しかし、引き受けてよかった

と思うことも多くある。同じ町内に住んでいながら、会釈を交わす程度でしかなかった方々と、いろいろな話ができるようになった。これまで教員の世界だけしか知らない私にとつては、目から鱗ということもよくある。

同居の母が介護認定を受け、海外旅行などは夢のまた夢。頼られるうちが花と、今日も黄色のキャップをかぶり、登校時の交通当番に。

「おじさーん、おはようー」

埼玉県退職校長会

「会報」第16号

三方よし

熊谷 内田 眞弘

私の最終勤務校、熊谷東小学校では歴代のPTA会長・本部役員、校長・教頭等が一年おきに一堂に会し、現役の会長、校長から学校の現状について説明を受け、意見交換する会がある。自分が現役の時はお歴々の顔を伺いながら緊張したものである。今は失礼ながら、早く説明が終わって宴席に移って欲しい

と思いつつ耳を傾けている。今年  
の会では、熊谷女子高のラク  
ロス部が東小の校庭で練習して  
いるのは何故か、という話題に  
なった。そこで、私の出番とな  
った。

13年前、小学校の近くの児童  
公園で女子高生が、先に網のつ  
いた棒を振り回し走り回っている  
姿を見た。鳥でも捕まえる練  
習かと尋ねたところ、棒の先の  
網でボールをパスし、相手のゴー  
ルをねらうラクロスという競技で、  
最近人気のスポーツであること、  
「新設同好会で、校庭が殆ど使  
えない」とのことであった。

小学校の放課後の校庭は、併  
設の児童クラブの子どもたちが  
隅の方で遊んでいるだけでガラ  
ガラである。そこでラクロス部  
の女子高生に校庭を使わせてあ  
げようと思った。ただの同情心  
からだけではない。策略があつ  
た。それは、市内小学校陸上記  
録会のパツとしない本校の成績  
を何とかしたい、という思いで  
あった。早速、女子高の体育主  
任に電話し、ラクロス部に校庭  
を貸与すること、その代わりに

時々陸上部の生徒に小学生の陸  
上の技術指導をして欲しいこと  
を依頼した。主任は二つ返事で  
引き受けてくれた。ラクロス部  
の練習場所が確保できることは、  
渡りに船だったに違いない。

普段静かな放課後の校庭は棒  
を持って走る女子高生、トラッ  
クでは女子高生に教わる児童で  
賑わった。児童は女子高生に教  
わる新鮮さで、目を輝かせ、大  
いに張り切って練習に燃えた。  
これは効果観面で、大会では  
男女とも久しぶりの優勝杯を手  
に入れた。特にリレーは圧巻で  
あった。

大会終了後、女子高生達との  
茶話会で「小学生が可愛い、将  
来、先生になりたい」と感想を  
述べた陸上部の女子高生もいた。  
その後のラクロス部の躍進は  
めざましく、昨年は全国大会へ  
出場を果たし、女子高での花形  
の部活になっているらしい。小  
学生よし、高校生よし、先生よ  
し、三方よしの結果であった。  
現在、三方よし、少なくとも  
双方よしの視点で地域活動を見  
直しているが、手強い。

茨城県退職校長会

豊かな里山を

常陸大宮支部 岡崎 岑夫

ここ10数年来、春先から初夏  
にかけて、朝6時前後自転車  
で近  
くの山へ向かう。

刈払機のタンク満杯の燃料を  
使い切るまでの山仕事である。  
近年、里山の荒廃は著しい。  
そこで、所有する山地への植林  
を思い立ったのである。毎年苗  
木を植え続け、一昨年までに約  
2200本を植え終えた。

平成22年には、県の造林コン  
クールで優良賞をいただいた。  
植林後の下刈りは大変だが、  
欠かせない作業である。繁茂し  
た篠や下草は、苗木の成長を妨  
げ、枯死させることさえある。  
しかし、樹木の成長に伴い下  
草の伸びは次第におさえられ、  
作業量も軽減されてきている。  
これから更に齢を重ねていく私  
にとつては、誠にありがたいこ  
とである。

まっだが、今後も無理のない作  
業を継続し、健康寿命の一層の  
伸びを求めていきたい。

鹿児島県退職校長会

今、グラウンドゴルフが面白い

北九州市 西原 英邦

最近、グラウンドゴルフの仲  
間入りをした。発祥の地は鳥取  
県泊村(トマリソン)である。  
ゴルフと同じようにロングホー  
ルあり、ショートホールあり、  
コースは芝や地面のグラウンド  
と様々で距離感を合わせるのに  
苦心する。ホールポストの中に  
ボールが静止した状態をトマリ  
というルールがある。

町内の交流大会ともなると、  
200〜300人もの愛好者(男女高  
齢者)が会場を埋め尽くす。相  
当の年配の方々がホールインワ  
ンを出し、少ないスコアで上  
がるのを目の当たりにする。ゴル  
フの経験と若輩の自負から試合  
に臨むのだが、天を仰ぐばかり  
である。前半後半各8ホールを、  
時間を忘れてボールを追いかけ

て歩くのである。パットのときは程よい緊張感があり一喜一憂する。金がかからず気軽にできている。脳トレ、健康づくりの良いスポーツだと思う。

福井県退職校長会

「碧窓」第90号

清艶な花「薔薇」に魅かれて

大野地区 山村 宗武

十年ほど前、滋賀県の「ブルームの丘（バラ園）」で観た薔薇の美しさに魅せられ、いつの日か自分もあのような清艶な花を育てたいと思っていた。

今春、近所の庭に咲いているバラを垣間見、自分も育ててみようと思いを決し、プリンセスマーガレット、レオナルドダヴィンチ、JFケネディなどバラの苗木を市



(プリンセスマーガレット)

内の店で購入。自宅庭に花壇を造り、育てることにした。施肥や水遣り、除草等に結構骨が折れたが、ようやく固い蕾が膨らみ、そして開花するまでに至った。やはり圧巻は、あのフットボールのように固かった蕾が真夏の暑さにもめげず、朝陽を浴びて優雅に咲き誇る清艶な姿である。

と、このころで、バラには何故「刺」があるのだろうか。調べてみると、「バラ」の原種の多くはツル性の植物なので、茎や枝を周囲にひっかけて、自生するのを広げるためとか、草食動物に食べられないよう、柔らかな茎や枝を棘で守っているとか、諸説あるようである。その中に「バラ」が自然界で生き残りをかけた防衛手段として、魅力的な花の色や香りでミツバチなど昆虫

を誘い、受粉の時に邪魔にならないよう棘を花の近くから避けるように進化したという説がある。なるほど、花はハナバチの受粉がないと自分たちの子孫を繁栄出来ないし、自然界で生き残ることが出来ないだろうから、うなずける話である。

まもなく師走。越冬を経て、来春の開花が楽しみである。

新潟県公立学校退職校長会

「会報」第55号

出前俳句教室

直江津支部 田中 章夫

古希を迎える年となりすっかり現場が遠くなりました。それなのにまだ学校へ行くことがあります。小学校二年生から中学校三年生までの子どもたちと一緒に行くのです。なんのことはない、元気をもらいに行くのです。

退職1年目の4月1日の朝7時電話が来ました。「ぎんなん句会」の誘いです。葉書投句だけというつもりでしたが、6年過ぎたら句会に参加し、春と秋の吟行にも参加するようになってい

ました。10年目の今は小・中学校の要請に応えて俳句の出前教室に出かけて行くようになりました。

もちろん一人ではありません。句会の先輩方と一緒にみんなで行くのです。たくさんいたほうが子どもたち一人一人と俳句の相談ができるからです。

毎年10月には、ぎんなん句会主催「上越地区小・中学校俳句大会」に子どもたちの俳句が寄せられます。今年で19回目です。子どもたちのセンスはまさに新鮮です。年寄りの句作にとっては刺激となります。各学年の入選句は12月に「上越地区小・中学生俳句大会作品集」に載せられ、各学校に配布されています。当句会は、自分なりの句を真剣に且つ楽しみながら作っている会、そして、会員の句を優しく見つめ自分の考えを自由に述べる会です。毎年各会員の自選句二十五句を元に句集「ぎんなん」を編集しています。昨年は四十七集でした。「俳句は健康づくり」の合言葉で、毎月1回定例句会を開いています。

五反田だより (事務局)

ご案内のとおり全連退事務局は、東京・品川区の北部、JR山手線、東急池上線、都営地下鉄浅草線の各五反田駅を中心とした地、五反田にあります。

この地名は、江戸時代の古い地誌に、目黒川周辺の水田が一区画五反(約五千平方米)であったことに由来するとあります。

現在の五反田は、概ね、山手線を境に東西に分かれ、東京の城南地区の中核地として、オフイス街、繁華街等になっています。

東五反田は、美智子皇后のご実家、正田邸(現在は、ねむの木の家)になっています)があったように高級住宅地といわれています。

この地、都指定有形文化財の旧島津公爵邸、清泉女子大、薬師寺東京別院、3つの大使館、2つの領事館などがあります。春の一日散策はいかがでしょう。

(T)

◇1月

- 10 総務部会
- 11 生涯福祉部会
- 17 年間紀要編集会議
- 24 出版事業委員会
- 26 やよい会
- 31 部長会・運営対策会議

◇2月

- 5 年間紀要(初校)部長会
- 9 常任理事会
- 13 広報部会
- 14 出版事業委員会
- 15 全連退情報157号発行
- 16 年間紀要(再校正)
- 19 会計部会・広報部会
- 23 年間紀要(最終校正)総務部会
- 26 広報部会

◇3月

- 6 部長会
- 8 教育振興部会
- 12 教育課題委員会
- 14 生涯福祉部会
- 15 副会長会
- 16 副会長会
- 19 部長会
- 26 出版事業委員会

全連退ホームページ「表紙の写真」募集について

全連退ホームページの表紙を飾る写真を、会員の皆様から募集いたします。内容は、表紙にふさわしいものであれば、自由です。写真は3~5枚で、メールまたはプリント写真での受付といたします。採用させていただきますと、作品名とお名前を掲載して一定期間活用させていただきます。宛先は全連退広報部です。今回の募集期間は平成30年8月31日までです。

送り先 メール info@zenrentai.org  
郵送 東京都品川区東五反田5-21-13-308

平成30年度の理事会及び総会の日が決まりました。

理事会 6月11日(月)  
総会 6月12日(火)  
会場 きゅりあん(品川区総合区民会館)

編集後記

○今年の冬は記録的な大雪が各地に降りましたが、ようやく暖かな春の季節が訪れました。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

○昨年から学校における働き方改革の問題が大きく取り上げられました。いろいろな課題がありますが、教員や児童生徒にとつてより良い環境づくりは大切です。全連退としてもこれからもこの問題に注目していきます。

○「心を育む学校の力」―学校と家庭・地域の協働を生かして―が刊行されます。ぜひ購入されご一読いただきたいと思えます。また、現職の先生方にもご推奨ください。

全連退会報(207号)

発行 平成三十年三月十五日  
発行所 東京都品川区東五反田

五二一三三三〇八

全国連合退職校長会

電話 〇三三四四二八七六八

FAX 〇三三四四二八七六八

Eメール info@zenrentai.org

振替口座 〇〇一九〇九四四七二〇

責任者 戸張 敦雄

印刷 株式会社 信行社

電話(〇三)三八三三三三六二二